



POINT 1

知・技

基礎・基本の定着と活用力を高める活動の工夫

個別最適な学びを充実させるためには、基礎・基本の知識及び技能の確実な習得が重要であろう。そのためには、子ども一人一人の学習意欲を高めるような動機付けや授業展開が求められている。そこで、前時の内容を振り返りながら本時の課題や学習内容につなげる取組や、学んだ知識を活用する活動を紹介したい。

1 前時の内容を振り返るテストの実施

本時の授業に入る前に、5問テストを実施している。授業前の休み時間から前時のプリントを自ら振り返る子どもが増え、重要語句の確認をするようになった。

例えば、地理的分野の「地球の姿を見てみよう」という単元では、六大陸・三海洋の位置や名前、国名から何州に属しているかという問題を出題した。解答後、各自で間違えた箇所を前時のプリントで確認を行い、さらに教師が間違いやすい箇所の補足を行うことで、子ども自身が振り返る機会を確保した。前時の復習の時間を設けることで、本時への学習内容につなげていくことができた。

2 学んだ知識を活用したレポートの作成

今までの学習した内容を生かす取組として、個人が課題を設定した新聞を作成している。

例えば地理的分野の「日本の諸地域」では子どもたちが都道府県についてまとめている。都道府県の地理的状況や気候の特色から、どのような産業が盛んであるか調べて、整理する活動を通して、技能を高めることができるのではないだろうか。

地理新聞を作る際には、以下の条件を設けた。

- ・紙面を記事で埋め、空白をつくらない。
- ・色鉛筆・カラーペンなどを使用し、ペンで書く。
- ・写真・グラフ・絵を必ず1つ入れ、その説明も付ける。
- ・編集後記が書かれている。

この中で、特に写真やグラフ、絵を入れることを大切にしている。なぜなら、都道府県の特徴の根拠となる資料を選び、説明をすることで地理的な技能を活用すると考えているからである。



【条件にしたがって作成した子どもの新聞】

芽室町立芽室西中学校 教諭 小泉 佳世



POINT 2

思・判・表

学び合いと言語活動による思考力、判断力、表現力等の育成

社会科の授業において、様々な課題に対して異なる他者との交流により、考え方が組み合わさることや、学んだことを文章で説明するような学習活動を繰り返すことで、思考力、判断力、表現力等が少しずつ高まっていくのではないだろうか。ここでは、子ども同士の学び合いによる問題の発見や解決に挑む授業の展開や継続した言語活動の取組を紹介したい。

1 グループ活動でお互いの意見を交流する

子ども一人一人が課題解決に向かう力を高めるために、学習課題を少人数で話し合う中で、自分の考えを伝え、他者の考えを聞き交流する機会を保障する必要があると考える。そこで、日々の授業で小グループでの学習の時間を設けている。

例えば、地理的分野「世界の様々な国々」の単元では、似たような名前や国旗、国境の特徴をもつ国をグループで探した。まず、子どもが課題について個別に調べる。その後、グループ内で調べた内容を交流する時間を取り、他の子どもが見付けた国々を検証する。こうした学び合いが、視野を広げるきっかけになると思われる。



【グループで課題に取り組む子どもたち】

2 学んだ知識・技能を生かして説明する

十勝管内で採用されている教科書には「チェック&トライ」というコーナーがある。このコーナーでは、授業の終わりに本時での学びを確認できる課題が掲載されている。自分の言葉で説明する活動を積み重ねることにより、子どもたちは、学びを深めていくことができるのではないだろうか。

例えば歴史的分野の「聖徳太子の政治改革」の授業では、授業の終末に「聖徳太子や蘇我氏たちの政治のねらいを『大王（天皇）』『中国』という語句を使って説明しましょう」という課題が掲載されている。子どもたちは、本時で学んだことを振り返りながら取り組むことで、学びを深められるだろう。また、教師は提出されたものに対し、誤りや改善すべき箇所をチェックして直接声を掛けたり、アンダーラインを引いて返却したりしている。子どもはシートをさらに確認し、どのように考えて表すべきかを振り返ることができるようにしている。

【トライ】小野妹子らを隋に送って、発展した中国の天皇を中心とした政治を学びに行って、推古天皇を中心とした国をつくった。

先生からのコメント
中国の君主は「皇帝（天子）」と呼ばれていました。

【ある子どもが提出した解答例】

このように、子どもたちが協働的に学んだり、学習した知識・技能を活用する機会を重ねたりしていくことで、自らの考えを更に深めていくことにつながっていくだろう。